

説教余滴 2018年5月6日《牧会祈祷は難しい》

年齢を重ねるに従って、時間の経過が早くなりました。イヤー、そうではないでしょうね。

いつだって、時間の長さは変わらないはずです。歳月の流れを早く感じるようになった、というべきなのかもしれません。子供のころ、お正月を待っているのになかなかこない。

そして、ようやく来た、と思うと、あっという間に過ぎてしまう。クリスマス、正月、イースター、大型連休、いずれも待ちわびることが多いものです。

そして、過ぎ去ることも早い。もちろん、感覚のことですから個人差も大きいでしょう。

人生いろいろ、人さまざま、十人十色。違いがあつてよい、豊かになる。

個人差についてお詫びしなければなりません。『若木』に牧会祈祷について書かせていただきました。

「牧会祈祷では、何を祈ることも出来ます。ただ皆と一緒にアーメンといえるような祈りを捧げましょう。それが、公同の祈りであり、密室の祈りとは違うところです」。

先日、ある方からご注意を頂きました。

「連続二週、祈られたあのことに関して、私は考えが違います。アーメンが唱えられません」。この方は、二週連続、ご自分の礼拝が危機にさらされたのです。

ごもっともです。率直にお詫び申し上げます。私は、政治的なことには距離を置いているつもりです。皆がアーメンといえるように、と考えています。油断なのか、緩みなのか、一人よがりであったようです。困ったことです。こうしたことがないようにして行きますが、同様なことがありましたら、ご忠告ください。直すべきであり、それができるなら直します。直せないことなら、「失礼」、です。

牧会祈祷は難しい。司式者に担当していただくのは酷なように感じます。やはり牧師自身がこの責めを担うべきなのでしょう。努力します。